

八犬伝ではない、本当の里見氏が
房総に居たことを、知っていますか？



嶋津敬 写真展

さとみびと

里、見渡せば 里見人

～戦国大名里見氏の伝承～

歴史書にかいてあることだけが歴史ではない。驚きと発見、里見氏ゆかりの人々が綴る伝承の数々。

会期：2013年 8月17日（土）～8月29日（木）

時間：9:00～16:45 *最終日は15:00まで 26日（月）は休館日

場所：“渚の駅” たてやま <館山市立博物館分館内 市民ギャラリー>

詳細：<http://satomibito.com>

入場無料

(ごあいさつ)

戦国時代、房総の地に覇を称えた大名、房総里見一族のおこりについてこれまで多くの研究がありました。しかし未だその出自については謎のままです。古文書や金石文を事細かく調べても、系図、軍記物語に頼ってみてもやはりわからないといいます。今となればもう遡る事の出来ない遠い霞の彼方の事なのでしょう。

ところがわからないということは同時に魅力でもあると思うのです。

研究者は仮説をたて作家は創作をする事が出来ます。同時に里見氏ゆかりの地では多くの伝承が生まれ語り継がれることとなりました。伝承の多くは当てにならないもの、証拠のないものとして見過ごされがちですが共にゆかりの品も多く残され、伝えられています。

この写真展は里見氏の歴史と伝承に深く関わりのある寺社や個人宅に伝わる品々、景観、そしてこれらを伝える人達を捉え記録したものです。

タイトルの「里見人」(さとみびと)とはゆかりの土地で伝承を語ってくれた方々から感じたイメージで付けさせていただきました。

長い時間に隔てられ伝説や伝奇小説となりながらも確かに存在した里見氏。かの地ではかつての戦乱と不意の静けさとの混在が地霊のように息づき、人々と共に今を形づくっていることに気付かされます。

失われつつも続く「痕跡と忘却」の歴史を感じていただければと思います。皆様のご来館をお待ちしております。

(房総里見氏とは)

里見氏系図



里見氏の祖は源氏の一族が上州(群馬県)新田荘へ住み、さらに里見郷へ移り住んだ一族が里見を称したことから始まります。その後全国各地へ散らばった里見氏の中で室町幕府と対立し関東独自の政権を打ち立てようとした鎌倉公方に従い1400年代中頃、房総の南端白浜に入部した里見義実が房総里見氏の始まりでした。その後、嫡流を滅ぼすほどの内乱や新興勢力の後北条氏との対立、豊臣秀吉による上総没収、関ヶ原の戦いなど様々な時代を切り抜けてきました。しかし慶長19年(1614)徳川家康により伯耆の国(鳥取県)へ改易され170年に及んだ房総里見氏の歴史は幕を閉じることとなります。



(展示に寄せて)

400年前に里見は歴史の表舞台から姿を消しました。しかし、安房の地で一世を風靡した里見一族の足跡は脈々と生き続けています。それを嶋津さんが掘り起こし記録した写真展です。人々の中に語り継がれている伝承の数々に、私は胸をときめかせました。(前千葉県知事 堂本暁子)

地域に連綿と伝えられてきた伝承は、幾世代もの人々の里見氏への想いである。それは史実を明らかにするヒントにもなる。歴史研究の資料としては軽い扱いになる伝承だが、それを伝える人々とともにその手がかりにスポットを当てた展示といえる。(館山市立博物館館長 岡田晃司)



嶋津 敬 (しまづたかし) プロフィール

1969年 山梨県生まれ、千葉県四街道市育ち
平成4(1992)日本映画学校(現日本映画大学)卒業

市民講座で千葉経済大学名誉教授、故川名登氏に房総里見一族の歴史を学んだことをきっかけに里見氏ゆかりの「人」、「品々」、「景観」を追い求め、全国各地を巡る。3年間かけ記録をし続け、現在も撮影を継続している。東京都在住。

[会場までの地図]

“渚の駅”たてやま
館山市立博物館分館内市民ギャラリー
〒294-0036
千葉県館山市館山1564-1
ご案内番号:0470-23-5212

- 富浦ICから約6キロ車で約15分
- JR「館山駅」
西口から1.2km 徒歩15分
- 城山公園から1.2km 徒歩15分
- 沖の島から3.4km 車で8分

